

日時：平成29年9月24日(土)14：10～17：30
場所：多摩市役所 301・302会議室

<p>ヒアリングから</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おはなしシュッポッポ <ul style="list-style-type: none"> ・新中央館のアクセスも考慮してほしい。駐車場に配慮を。 ・市内図書館どこで借りてもどこでも返却できる今のシステムはとても便利。 ・地域図書館は絶対に必要 ・心休まる、寛げる図書館（地域図書館を含む）は市民にとって大事。 ○図書館協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域館は、必要不可欠である。施設の老築化を迎えた後にも、サービスを継続できる何らかの対策を立てるべきである。 ・職員の資質、能力の向上が必要。 ・本館を中心として、地域館の充実。 ・学校図書館への支援強化 ・学校図書館司書の配置は教育活動にとって大変有効 ・現図書館費中の職員経費の比率74%の大きさは問題 ・休憩室、談話室、喫茶室などゆとりある空間を考慮 ・中央図書館へのアクセスにも考慮する。 ・図書館を「本を貸すところ」と狭く定義するのではなく、「知識・情報の広場」に ・コミュニティの過去、現在、未来をつなぐ機能 ・市民の知的創造を触発し支援する場所に。 ・充実したコレクション。ブラウジングで情報遭遇。 ・地域情報、行政情報に関わるアーカイブ機能 ・電子的機能の活用・充実 	<p>パルテノン・中央公園・図書館新本館の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多摩センター駅周辺 <ul style="list-style-type: none"> ・歩道がネットワーク状につながっている。 ・パルテノン改修でエレベーターを使いやすくする計画が提案されている。 ○多摩中央公園 <ul style="list-style-type: none"> ・園路は障がいのある方には厳しい。使いやすく改修を提案したい。 ・子どもたちに楽しんでもらえるような「冒険の道」を提案したい。 ・図書館本館は中央公園を大切にしたい配置計画になるように期待したい。 ○駅から何分ではなく、知らずに歩いていけるように、道すがら展示設備があるような、文化の香りがある道行きになると良い。遊具があちこちにあって、子どもは遊びながら行くと図書館に着いてしまうというような道行きも考えられる。 ○公園と図書館が一体になるような計画、アプローチで「緑陰読書」ができるようにしたい。 ○パルテノン多摩の基本計画策定委員会でも、立ち寄り・散策・余韻を楽しめるような公園の環境づくりが提案された。中央公園の中の「冒険の道」のように、子どもが楽しみながら辿れるような提案もある。 ○歩いて図書館に来る人は公園の道を使ってもらえるように整備してはいかがか。自然観察会を図書館で行うようなこともできるのではないかと思う。公園側のアプローチは多様な可能性を秘めている。 	<p>基本構想の柱となるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務局提案 <ul style="list-style-type: none"> 平成22年の図書館協議会の答申と『多摩市立図書館の基本方針・運営方針』を基本構想の柱としたい。 ○平成22年の図書館協議会の答申は、ニーズについては網羅されているように思う。 ○中央図書館を求めて連綿とした基礎調査や諮問答申があるが、どれにも中央図書館の大切な仕事に、地域館を支援するということが書いてある。こういうふうに求められてきたのに、公共施設の見直し行動プログラムに一度は3館構想という提案がされて、市民は驚いた。反対運動もあって地域館が残ることになったが、基本構想には、その変遷が市民にわかるような記述が必要ではないか。 ○児童サービス、ティーンズサービス、地域向けサービス、多文化サービスについては、読書活動振興計画には記載があったので、付け加えるべきだ。 ○図書館では障がい者サービスや児童サービスでボランティアに協力してもらっている。さらに活動を広げていただくようにしたい。 ○図書館の自己評価・外部評価の実施と公開を行うべきだと考える。 ○図書館を居場所として活用するという。図書館は唯一、公共施設の中で肩肘張らずに一人でいることができるし、邪険に扱われることがない。本や新聞を読むことができ、人との出会いもある。図書館の利用を情報収集だけとは捉えずに時間をゆっくり過ごすことを提案しても良いのではないか。 ○「持続発展教育・ESD」 <ul style="list-style-type: none"> ・ESDをどのように子どもたちに学ばせるか、学校にある資料では賄えない。 ・子どもが中央図書館に出かけて行って調べるだけではなく、話し合う・会議などができればよいと思う。 ・新しい技術で環境に良いことなど、新図書館の建物から学ぶこともできる。テーマに合わせて柔軟に学べるような場にできればよい。 ・子ども未来会議や中学生サミットなどが行われている。図書館で開催されて、調べる・発表する、という未来志向の学習の場にしたい。 ・「子どもへのサービスの充実」は読書活動振興計画にも挙がっている。図書館でもESDの観点で学べるようにしたい。 	<p>基本構想に盛り込みたい項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館協議会答申にある「職員のあるべき姿」に「図書館における利用者の課題解決のために」というところが非常に重要だと思う。 ○働き盛り世代がいちばん大変。「自殺をしたくなったら図書館へ」と先ほども出たが、図書館が駆け込み寺になっていることが知られていない。働き盛り世代・大人の課題解決は大切で、現代の図書館では重要なサービスである。 ○経済の活性化や市民の健康は、行政の課題でもある。こういったことを文章・項目として入れたい。 ○市役所を支援するといことも重要。市役所の課題は市民の持っている課題ともオーバーラップする。行政マンが効率よく仕事をすれば、市民の生活も良くなっていく。 ○空間として市民が交流できる、自由に声を出して議論ができたりするところや、利用できる機器があり支える図書館員がいるというような空間を、機能として加えたい。 ○20代の若者は図書館の利用率が低く、どのように誘引するか、多摩市立図書館の課題となっている。文化・教養よりも、若者が集まりやすい環境づくりをしていくとよいと思う。 ○カフェやたまり場、中高生には自習スペースがあると活用される。 ○基本構想なので、あまり具体的なことを書いていくと次の段階の計画を縛ることになる。機能や役割を重点に述べていきたい。
<p>障害者サービスとヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サービスの受け手となる利用者のヒアリングとボランティアをしている方のヒアリング（音訳・点訳を行っているボランティア団体など）、基本計画の段階でそういった団体を取りこんで意見を聞いて行ってはどうかと思う。 ○日野市立図書館では視覚障がいを持った方が図書館員として働いている。障がいを持った方だからこそ、利用者の心情に沿うことができるように思う。多摩市立図書館もそのような検討ができれば、と提案。 ○障がいを持った方の気持ちがよくわかるということでは、働いていただくのは良いことではないかと思う。 	<p>新本館へのアクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅からの高低差については現在よりも段差解消の工夫はされるようで、元気な人は歩いていくことができるが、それができない人にとっては車でのアプローチが大切になる。 ○中央館敷地は、あまりにも駅から遠い。アクセスについては非常に大きな問題で、なんとかならないか検討したい。アンケートなどでも意見が多かった。 ○新本館計画地のアクセスについては基本構想に盛り込むべきだ。 ○多摩市は起伏が多い。普段は地域図書館に通うとしても、気軽に魅力ある中央図書館に行けるように、巡回のマイクロバスが運行すると良い。 ○新本館計画地にミニバスが運行するとして、道路やロータリーの形状は改修しないでよいのか。→ロータリーはクルドサック(袋小路状道路)という形状になっているが、大型バスでも回転できると考えられる。→現在、この道路の歩道はアカデミーヒルズ側のみついていて、図書館本館の敷地側にはついていない。拡幅して歩道をつける必要があるか、庁内で検討を行っている。 	<p>参考にしたい資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『図書館をめざすもの 新版』編・訳者の竹内さとるさんは日本図書館協会の理事長もされた方で、多摩ニュータウン創立期に永山の住民だった。『アメリカ社会に役立つ図書館の十二か条』を訳して解説を加えたもので、2014年出版された新版には、全米図書館友の会連合会の「図書館協約」と日本の図書館友の会全国連絡会の「私たちの図書館宣言」比較や日米の図書館の比較があり、日本の図書館をどうしていくべきか、投げ掛けがされている。基本構想はこれから言葉を紡いでいく段階になるので、この理念も反映していただきたいと思う。 	
<p>高齢化率</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢化率が高い地域は、流動化が進むと考えられる。 ○多摩ニュータウンは、子育て世代にふさわしい地域が多い。この環境を守って、若い世代にうまくバトンタッチしていきたい。 ○図書館計画をつくるとき、10年20年先に高齢化したところで世代交代が進み、若い人が住み人口が増えるか、街の状況の見通しが大切。 ○今後、自治体間で移住者の取り合いになっていくだろう。利便性も移住の要因になるだろうが、図書館がセールスポイントになると良いと思う。 			